

よりよく生きる

今回は、道徳の22の内容項目の中の「公德心」について紹介いたします。

【公德心とは】

公德心とは、社会の中でみんながルールを守り、他の人の幸福を考えて行動する気持ちのことを指します。「自分だけよければいい」という考えではなく、みんなの暮らしをよくするための思いやりや責任感が公德心に含まれます。道徳の基本ともつながりますが、公德心は特に、「公共の場での振る舞い」や「社会全体に対する視点」を重視する考え方です。

【公共心と道徳の違い】

道徳は、家庭や学校で教わる「よい／悪い」という規範の集まりです。一方、公德心は社会の一員としての振る舞いを広く捉え、公共の場での協力や思いやり、ルールの遵守を含みます。例えば、電車で席を譲る、ゴミを自分で持ち帰る、学校の規則を守るなどが公德心の具体例です。

【身近な例と日常の実践】

学校生活では、掃除の時間に協力する、係の仕事を責任を持って果たす、友だちが困っているときに声を掛けるといった行動が公德心の表れです。地域社会では、ごみ拾いに参加する、騒音を控える、困っている人に手を差し伸べるなど、地域の人と共に暮らすコツを身に付けます。

【公德心が育つ場と育て方の基本】

公德心は家庭、学校、地域の三つの場で育ちます。家庭では日常の約束を守る姿勢、学校ではルールを守る練習、地域ではボランティアや協力の機会を通じて育てます。大人が見本を示すことも大切です。

【具体的な育て方のヒント】

- ・ 日常の小さな選択を大切にする。
- ・ 約束や時間を守る。
- ・ 困っている人を見かけたら声を掛ける。
- ・ 地域のルールを守り、役割を果たす。

【オンライン時代の公德心】

現代はオンラインでの交流が増えています。SNSや掲示板での発言にも公德心は必要です。他人を傷付けない言い方を選ぶ、虚偽情報を拡散しない、情報の出典を確認するなど、ネット上でも公德心を活かす行動が求められます。



公德心は、社会をよりよくする力です。学校生活や地域生活で、小さな思いやりの積み重ねが大きな影響を生み出します。日々の行動を振り返り、公德心に繋がる選択を意識してみましょう。